

魅力其の二

「歴史の魅力」 江戸から昭和へ タイムスリップ

村井 亮治



当時の街並みが残る通り

史上まれにみるインバウンド熱

ここ数年、外国人観光客によるインバウンドが年々高まりをみせ、二〇一六年には年間二千万人を超え、二〇一七年には二十%以上の伸び率で増加している（日本政府観光局）。インバウンドの目的は様々だが、特に注目が高いと思われる目的の一つに Eotourism（自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かした観光を成立させること）がある。豊かな自然に恵まれている東海圏でも多くのツーリストが訪れているとみられ、その中の一つ中山道をみていきたい。

中山道 黄金ルート【馬籠・妻籠宿】

中山道は、日本橋を起点に伸びる五街道（他に東海道、日光街道、奥州街道、甲州街道）の一つであり、京都の三条大橋まで、内陸部を経由している。この地域では長野県、岐阜県を経由し全六十九か所のうち半数以上の四十二か所の宿場があり、それぞれがその歴史、自然、文化の紹介、まち並み保存とともに国内外からの観光客に向けた観光事業を展開し、宿場を利用したまちづくり、地域活性化に取り組んでいる。

全国的には長野県の妻籠・馬籠宿が知られ、欧米諸国のツーリストから人気があり、妻籠から馬籠宿ルート歩くツアーは黄金ルートともいえるほどメジャーな存在だ。日本人と同

様に外国人にとっても、馬籠・妻籠宿は魅力的な場所となっている。

三大難所の一つ 太田の渡し【太田宿】

そんな黄金ルートから八次目にあるのが五十一番目の宿場にあたる太田宿である（岐阜県美濃加茂市）。ここは長良川を渡る中山道三大難所の一つ「太田の渡し」がある特別な宿場でもある。

太田宿は、名古屋駅から鉄道を利用し約一時間でアクセスできる JR 美濃太田駅から駅前商店街を南へ徒歩一〇分ほどの位置にあり、木曾川沿いに東西約六八〇mに亘り延び、通りには当時の面影を残した建物が数軒現存する。その中には、旧太田脇本陣林家住宅（国重要文化財）、吉田家住宅主屋（旧小松屋・国登録有形文化財）や本陣門（市指定有形文化財）といった重要な文化財が残る他、当時の酒蔵を残し

国登録有形文化財
(吉田家住宅主屋・旧小松屋)

た造り酒屋、飲食店や休憩所を利用して軒残る。また、宿場を紹介

介し、江戸のまち並みを再現した展示室を備えた中山道会館が整備されている。

通りを散策すると、妻籠宿、馬籠宿と比較して、その規模や建物の集積は少なく、インバウンド需要を充たすまではいかないが、それでも現存する建物から宿場情緒はしっかりと堪能できる魅力のある場所である。

江戸から昭和へ【美濃加茂・昭和村】

ここ美濃加茂市には、太田宿より北へ四kmほどの場所に、風光明媚な田園風景と昭和三十年代の里山の風景を再現した日本昭和村がある。中山道で江戸情緒を、昭和村では古き良き昭和の時代を楽しめ、江戸から昭和へのタイムスリップできる貴重なエリアとして、もう一つの黄金ルートが完成する。



太田宿全体(美濃加茂市発行)